



様式1(主な取組)

活動指標名	低減化率(小規模離島)				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
		航空路 約3割	航空路 約3割	航空路 約3割	航空路 約3割	航空路 約3割	航空路 約3割	100.0%	350,695	順調	観光客等の航空運賃を低減するため、小規模離島の航空路及び那覇-久米島の7路線で、事業者に対し、負担金を交付した。	
活動指標名	—				R元年度			—			—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	—	—	—	—	—	—	—					小規模離島及び久米島の航空路7路線で、観光客等の運賃の低減を行ったところにより、観光客等の利用者数が前年度から、3,677人増の110,133人となった。
活動指標名	—				R元年度			—	—			
実績値	—	—	—	—	—	—	—					
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和元年度の取組改善案						反映状況						
<p>・離島地域の自治体と連携し、引き続き交流人口の交通コストの負担軽減を安定的かつ継続的に実施するとともに、今後の着実な事業実施に向け、事業の効果等を定量的に把握する取組を行う。</p>						<p>令和元年度に事業の効果等を定量的に把握するため、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業による経済波及効果等調査を行った結果、事業の効果として費用対効果が約1.2倍であると算出された。 引き続き離島住民の交通コストの負担軽減を安定的かつ継続的に実施する。</p>						



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・本事業の実施により、交流人口の交通コスト(航空運賃)の負担軽減が図られており、観光客等の移動しやすい環境が構築されたことから、利用者は増加傾向にある。

##### ○外部環境の変化

・利用者が着実に増加する中、離島市町村から要望がある事業の拡充等について、本事業が安定的かつ継続的に実施できるようなスキームを前提に検証する必要がある。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・事業の拡充については、本事業が安定的かつ継続的に実施できるようなスキームが重要である。

### 4 取組の改善案 (Action)

・離島地域の市町村と連携し、引き続き交流人口の交通コストの負担軽減を安定的かつ継続的に実施していく。